

西田友是(にしたともゆき)

東京大学名誉教授、広島修道大学経済科学部教授 (UEI リサーチ所長 兼)。

昭和 48 年広島大学工学研究科修了、同年マツダ入社。昭和 54 年から福山大学電子電気工学科講師、昭和 63 年から 1 年間米国 Brigham Young 大学客員研究員、平成 2 年から福山大学教授。(平成 6 年から東京大学理学部非常勤講師を経て)平成 10 年 10 月から東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻教授。平成 11 年から新領域創成科学研究科 複雑理工学専攻教授。2013 年 4 月から現職(修道大学教授)、また同年に研究所(UEI リサーチ)を設立し研究所長(研究所は 2015 年 8 月から銀座歌舞伎座タワー内の KADOKAWA-DOWANGO 社に移管、2016 年 11 月から東大赤門の傍の本郷角川ビルに移動)\*1。

**研究の特徴** ; 日本におけるコンピュータグラフィクス研究のパイオニアであり、3次元物体のリアルな表現法、照明シミュレーション(種々の光源、相互反射光の計算、天空光)、景観予測、自由曲面の表示法、CGアニメーション、インタラクティブレンダリング等の研究に従事(1970年から35年以上)。CGの基礎的研究としては、3次元物体の隠線消去、隠面消去の方法、また、陰影表示においては、種々の光源に対するシェーディングモデルの開発を行った。特にリアルな画像を表示する手法の代表的技法である Radiosity 法(相互反射を考慮する方法)、半影の処理のパイオニアである。また、雲、空、雪、水などの自然物の表示法の研究を行なっている。ハードウェアを利用した、水、砂状物質、髪の変形を高速描画する方法、画像のみでなく音の生成についても研究している。著書に「3次元コンピュータグラフィクス」(昭晃堂)、「ビジュアルコンピューティング - 3次元CGによる画像生成」など数冊。

**学会活動/社会貢献** ; 平成 13 年から画像電子学会ビジュアルコンピューティング委員会委員長(5年間)、平成 18 年から情報処理学会 GCAD 研究会主査、平成 21 年から画像電子学会会長、国際会議 Chair(及び論文 Chair)6回、国際会議論文委員 50回(SIGGRAPH 論文委員 5回を含)、国際的学会誌編集委員(米国 IEEE 学会の Transactions on Visualization and Computer Graphics の編集委員など)4件など学会委員、また協会理事、会社顧問 4件を歴任。

**受賞** ; 昭和 62 年情報処理学会から研究賞受賞(現山下記念研究賞:CG分野で初)、平成 17 年 ACM SIGGRAPH から Steven A. Coons Award 受賞(CG分野のノーベル賞、アジア初)\*2、平成 18 年 NICOGRAPH から CG-Japan Award を受賞。平成 29 年 ASIA GRAPHICS から Lifetime Achievement Award、日本国から紫綬褒章を受章。画像電子学会、情報処理学会フェロー授与など 31 件受賞。平成 18 年画像電子学会において「西田賞」(国内の優れたCG論文に授与)が創設された。

**参考** ; メール ; nishita@shudo-u.ac.jp

研究室 [東大時代] ; <http://nishitalab.org/user/nis/index.shtml>

Wikipedia ; <https://ja.wikipedia.org/wiki/西田友是>

UEI リサーチ ; <http://ueiresearch.dwango.co.jp/>

You Tube ; <https://www.youtube.com/watch?v=-stsHiuJTHU>

**注** ; \*1: 東京大学の定年に際し、これまでの西田の研究が絶えるのは損失ということでIT系のベンチャーのUEI社の社長の支援で研究所を設立し、2年半経過後、一部上場のドワンゴ社による支援に移された。ドワンゴ社はニコニコ動画の運営で有名で、老舗の出版社・映画会社のカドカワやスタジオジブリを配下にしてる。

\*2: CG分野では米国計算機学会のSIGGRAPHが最も権威ある学会であり、生涯をどうしてCG進展に貢献した人物に2年に1人与えられる賞がS. A. Coons賞である。この分野でのノーベル賞と言われている。西田はアジアでは唯一の受賞者である。